

LMcorsa Race Report

Super GT 2018 Rd,8 MOTEGI GT 250Km

● H.YOSHIMOTO
● R.MIYATA● M.NITTA
● Y.NAKAYAMA

11月10日 | 天候:雨/晴 | 気温:22度 | コース:ツインリンクもてぎ | 路面温度:24度(ドライ)

● H.YOSHIMOTO
● R.MIYATAQualifying Day Summary

刻々と路面コンディションが変わった公式練習で苦戦を強いられた SYNTIUM LMcorsa RC F GT3。

予選では宮田選手が好タイムをマークしてQ1を通過、Q2は吉本選手の走行タイミングが合わずに13番手となる。

Qualifying Day

年間8戦行なわれている2018年 AUTOBACS SUPER GT シリーズ。SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 は、第4戦のタイラウンドで3位表彰台を獲得するなど、着実にポイントを積み重ねてきた。そして前戦のオートポリスでは序盤こそハイペースで順位を上げたが、気温の上昇によりタイヤの摩耗が激しくなり、終盤でトップ10圏外となり12位でフィニッシュ。ドライバーズランキングをひとつ落して13位へと後退した。これにより年間チャンピオンへの望みは断たれたが、来シーズンに向けてひとつでも順位を上げておきたいところ。チーム一丸となって今シーズン最後の戦いへと挑む。



2018年シーズン最後の舞台は、栃木県にあるツインリンクもてぎ。SUPER GT では入賞するとウエイトが加算されていくウエイトハンディ制を採用しているが、最終戦ではこれを降ろしてのノーウエイト勝負となる。そのためマシンの素性の差が顕著に表れやすく、シリーズの最後を飾るに相応しいドラマチックなレースが展開されるのが恒例となっている。

そんな最終戦に向けての公式テストが、10月8日(月)、9日(火)の2日間に渡ってツインリンクもてぎで行なわれた。LMcorsa では今季、采配を握る飯田章監督の指揮の下、ドライバーの吉本大樹選手と宮田莉朋選手が意欲的にメニューを消化。

Qualifying Day

ドライコンディションのなか本番を見据えて数種類のタイヤを試したり、セットアップの煮詰めを行なった。この公式テストではGT300クラスの中で8番手となる1分48秒063をマークしている。

そして迎えた、今シーズンの最後を締め括る「2018 AUTOBACS SUPER GT Round 8 MOTEGI GT 250km RACE」。11月10日(土)は公式練習と予選、11日(日)には250kmの決勝レースが実施される。両日とも快晴との天気予報。しかし10日は前日から降り続けた雨が朝まで残った影響で、8時50分から行なわれる練習走行時は、路面の一部が濡れている難しいコンディション。



まず、ステアリングを握ったのは吉本大樹でウェット用のタイヤで数周のチェック走行を行ない、それから本番のドライ路面を見据えてスリックタイヤにスイッチ。着実にペースを上げ、19周目にはベストタイムとなる1分49秒059を記録する。また宮田莉朋選手も確認走行で4周したほか、公式練習後に行われた20分間のサーキットサファリでも走行を続け、予選前の最終確認を行なった。

<予選>

ピットウォークとFIA-F4第11戦の決勝レースを挟んで14時から行なわれたGT300クラスの予選Q1。気温も22度まで上昇し、路面温度も24℃まで高まった。まずSYNTIUM LMcorsa RC F GT3に乗り込んだのは宮田莉朋選手で、コースオープンとともに走行を開始する。タイヤは柔らかめのコンパウンドを選択。クリアを取れるタイミングを見計らいながらタイヤを温め、インラップも含めて4周目にアタックを開始。各セクターとも完璧にまとめて1分46秒966をマーク。予選Q1のトップタイムを刻んだ11号車と僅か0.4秒差となる躍進を見せ、予選4位で通過した。

GT500の予選Q1を挟んで行なわれた予選Q2は10分間の走行。アタックは吉本大樹選手が担当する。開始直後にはすぐにコースには出ず、クリアラップが取れるタイミングを見計らい、出走した14台中13台目にコースインをした吉本選手。予選Q1での好印象だった結果を踏まえてソフトコンパウンドのタイヤを履いてのアタックとなった。しかしタイミングが悪く、トラフィックをかいくぐりながらの走行になってしまう。さらに「タイヤのグリップ力が想像以上に高まっていたこともあり、勢い余ってオーバーシュートしてしまった」と本人が振り返る通り、タイムは1分47秒464と伸び悩み、予選Q2を13位で終えた。明日のレースは13番手グリッドからのスタートとなるが、確実にマシンの戦闘力は高まっている。コンディション次第では上位に食い込める速さを持ち合わせているというので期待したい。

Team Comment



Director : 飯田 章

予選では宮田莉朋選手が抜群のパフォーマンスを見せてくれて Q1 を無事に突破できました。Q2 を委ねた吉本選手も頑張ってくれましたが、本人も語っていたように勢い余ってしまった面があります。それでも公式練習などで厳しいと予想していた当初よりいい結果が出ているし、チームとしても良いムードになってきています。天気にも恵まれてタイヤと路面温度のマッチングも良い感じです。作戦も含めてうまく歯車が噛みあえば、上位に食い込める可能性は十分にあります。明日はひとつでも順位を上げられるようチーム全員の力を結集し、全力でレースに挑んでいきます。



Driver : 吉本 大樹

公式練習では路面状況が刻々と変わったため、タイヤ比較をはじめ予定していたプログラムを十分にこなせませんでした。しかし予選 Q1 では、履いた柔らかめのタイヤとマッチする気温に上昇し、宮田莉朋選手が素晴らしいタイムを出してくれました。Q2 もソフトタイヤを履いたのですが、想像以上にグリップしたこともあり、アタックラップに攻めすぎた箇所が2~3箇所ありました。本当は8~9番手あたりに食い込みたかったのですが、13位という結果に終わりチームに申し訳なく思っています。明日の決勝ではこのミスを取り返せるように、気持ちを切り替えて走りしたいと思います。



Driver : 宮田 莉朋

中古タイヤを履いて走った公式練習では、クルマのセットアップかタイヤのせいかわかりませんが、正直あまり良いフィーリングとは感じられませんでした。その際は1分48秒0がベストだったので、予選 Q1 では1分47秒台を目標に走りました。今回は占有時間でのシミュレーション走行ができないまま予選に挑みましたが、守りに入ることもなく攻め切れませんでした。まさか46秒台が出るとは想像できませんでした。自分でいうのも何ですがパフォーマンスを最大限に引き出せたと思います。明日の決勝ではタイヤが摩耗しすぎないように労りつつペースを上げてポイント圏内を目指します。



 **H.YOSHIMOTO**

 **R.MIYATA**



Qualifying Day Summary

前戦のオートポリスラウンドで今季2勝目を飾り僅かだがシリーズチャンピオンの可能性も残しているK-tunes Racing LM corsa。

事前の公式テストでも好調さを示して挑んだ最終戦は中山選手が予選Q1を10番手で突破し、新田選手が予選Q2で12位を獲得。

Qualifying Day

年間8戦で行なわれる AUTOBACS SUPER GT シリーズ。いよいよ最終戦となる「2018 AUTOBACS SUPER GT Round 8 MOTEGI GT 250km RACE GRAND FINAL」が11月10日(土)、11日(日)に栃木県にあるツインリンクもてぎで開催される。開幕戦の岡山国際サーキット大会と同様にウエイトハンデのない最終戦は、マシンの素性の差が顕著に表れやすく見ごたえあるレースが展開されるのが通例となっている。あわせて、前戦で2勝目を掴みドライバーズランキングでも5番手につける K-tunes RC F GT3 に乗る新田守男/中山雄一選手はタイトル争いの圏内にある。



最終戦に先立ち、10月8日(月)、9日(火)の2日間に亘り同じくツインリンクもてぎで公式テストが行なわれた。走行枠は1日あたり2時間が確保されており、数周ごとにピットインを繰り返して、セッティングを詰めるという地道な作業を繰り返しながら、二人のドライバーが走行した周回は実に189周。セッションが進むごとにタイプアップを重ね、ベストは1分47秒740をマーク。タイヤの比較テストをはじめ、決勝レースを見据えたロングランも実施し、最終戦へ向けた綿密なシミュレーションを消化した。

そして11月10日(土)には、公式練習と予選が行なわれた。8時からのFIA-F4公式予選終了後、



8時50分から公式練習が始まった。路面には前日からの雨がわずかに残るウエットコンディションであり、開始時の気温は17℃、路面温度は19℃。開始早々、晴れ間が見えてきたものの多くのマシンはウエットタイヤでコースイン。K-tunes RC F GT3は中山選手からスタートし、路面とタイヤとのマッチングを慎重にテストしていく。

Qualifying Day

最初の8周は軽く流すにとどめ、走行ラインがドライコンディションに変化してきた9周目を境にタイムが向上していく。15周目にはベストラップ1分47秒980を記録。17周目からは新田選手にチェンジし、そのまま10時15分から10分間のGT300専有走行へと移行した。公式練習では、二人のドライバーが24周を走行し、結果は中山選手がマークした1分47秒980がベストタイムで、9番手となった。

10時45分からのサーキットサファリ実施中も新田選手が走行を続け、その周回は10周に及んだ。公式練習が終了する頃には気温20.0℃、路面温度22.4度まで天候は回復し、11時45分から行なわれたピットウォークの頃には観客が上着を脱ぎたくなるような汗ばむほどの気候となった。

<予選>

公式練習終了後、サーキットサファリ、ピットウォークへとプログラムは進んでいく。そしてFIA-F4第13戦の決勝レースを挟んで、GT300の予選Q1が実施された。全29台により予定通り14時からのスタート。開始早々K-tunes RC F GT3とともにコースインしたのは中山選手。全5周のうち4周目まで丁寧にタイヤやブレーキに熱を入れていき、5周目でここ一発の攻撃を開始。公式練習を上回る1分47秒429のタイムをマークした中山選手だったが、ライバル勢もタイムアップを果たしたために予選Q1は10番手で突破することとなった。最終戦の白熱した予選は、トップから14番手までが1秒102のタイム内にひしめくという熾烈な闘いだった。

続く予選Q2は、14時45分から10分間に亘って実施された。ドライバーズランキングにおいてわずかでも上位を狙うには、ポールポジションで得られる1ポイントも重要とされる局面。決勝グリッドのポールを狙う14台が競い合うQ2は新田選手が担当。この時点で気温19.7℃、路面温度は23.3℃とタイヤグリップにとっても申し分ないコンディションを味方に、攻めた走りで4周目に中山選手のタイムを上回る1分47秒319を記録するも結果は12番手となった。翌日の250kmレースは12番グリッドからのスタートが決定した。10番グリッドからスタートしながらも優勝を勝ち取った前戦のような奇跡を起こすべく、チーム一丸となって全力で決勝に挑む。



Team Comment



Director : 影山 正彦

前戦は入念に基礎からピットワークを練習した成果もあり、勝利を呼び込むことができました。もてぎ戦に向け10月の公式テストでは中山選手とともに最適なタイヤ選択とセッティングを見出せていたのですが、公式練習スタート時は雨。狙った条件でテストすることが難しい環境で、選択に悩みが出てしまったのが予選Q1で10番手になってしまった要因でもあります。とはいえ、チーム全体ではミスもなく皆、やり切ってくれました。抽選で選ばれるタイヤの幅が広がったとポジティブに受け止め、表彰台を目指して全力で挑んでいきます。



Driver : 新田 守男

酷暑の富士でも問題のなかったブレーキと合わせ、もてぎに最適なタイヤ選択が見つかったこともあり予選ではシングルを狙っていました。予選Q1では中山選手が突破してくれたのですが、結果的に公式練習とは同じフィーリングとはなりませんでした。最多勝利数の更新というプレッシャーもありますが、そう簡単にはいかないことも承知しています。ただチーム全員の士気は高い状態にあるので、第3戦、第7戦のように結果を实らせたいと思います。



Driver : 中山 雄一

10月の公式テストでは、ソフトとミディアム、どちらも攻められる理想のコンパウンドを見つけることができたので自信を持って予選に挑みました。天候の回復に合わせ路面温度は順調に上がってきていたのですが、アタック途中で日差しがなくなり路面温度が上がらない時間帯に当たったのが悔しい結果に繋がりました。もてぎはフロント荷重が大きく掛かるコースなのでソフトでは辛い部分もありますが、抽選で選ばれたタイヤに運をまかせ、10番手からでも勝てた前戦に続きポディウムの真ん中に立てるよう、決勝レースに臨みたいと思います。

96



ktunes
RACING

● **M.NITTA**

● **Y.NAKAYAMA**